

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (ikeno@tcue.ac.jp)

【授業目的および達成目標】

新高等学校学習指導要領、及び教育課程（カリキュラム）の意味・種類、教育課程の編成原理、編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、について理解する。

学習・教育目標

G. 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の仕方を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解している。

【授業キーワード】

教育課程、カリキュラム、学校教育法、学習指導要領、指導要録

【授業内容および授業方法】

新しい時代を迎え、素質・能力ベースのカリキュラムを正面に据えて初等中等教育の改革が進もうとしている。これらにより、学校におけるカリキュラムは大きく変化してくることは確実である。今後は、ますます各学校におけるカリキュラムマネジメント、各教師におけるカリキュラムマネジメントが問われるところである。

本講では、学校現場における教員経験を活かしながら、学習指導要領を基準に各学校において編成されるカリキュラムに焦点をあて、教育課程（カリキュラム）の意味・種類、教育課程の編成原理、編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷等について考察を進めていくものである。

それらの意味を、教育の根本原理やその実践の方法、教師の仕事、教育諸現象ともつなげながら、できるだけ具体的な事例に即してともに考えていくものとする。対話形式（ともに考えること）を重視する。

【授業項目】

第1回：「ある実践」からカリキュラムのあり方を考える  
（資料、DVDなどからいくつかの事例について考える）

第2回：「教育課程論」〇×チェック

第3回：いま、なぜ「教育課程」（カリキュラム）か

第4回：新学習指導要領「総則」の読み方

第5回：学習指導要領の変遷I—経験カリキュラム

第6回：学習指導要領の変遷II—学問中心カリキュラム

第7回：学習指導要領の変遷III—人間性中心カリキュラム

第8回：内容選択の基準と編成の原理

第9回：子どもの発達と教科書

第10回：教育環境と達成されたカリキュラム

第11回：カリキュラムの履習スタイル

第12回：教科のカリキュラム

第13回：教科外カリキュラム

第14回：近年のカリキュラム改革の動向

第15回：諸外国の「教育課程」（カリキュラム）改革

※受講生の実態や教育界の動き等により、適宜内容や方法を変更・追加する場合もある

【授業時間外学習（予習・復習等）】

○ 学習効果を上げるため、教科書等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習を90分程度行い、授業内容に関する復習を90分程度行うことが望ましい。（事前には、教科書の、扱う部分について熟読し、授業後は、要点をノートにまとめておく。

○ 各自、分担の内容について、関連文献にもあたりながら、調べ・整理して、プレゼン資料を作成する。

【教科書】

○ 田中耕治編著『よくわかる教育課程〔改訂版〕』，ミネルヴァ書房，2018年

**【参考書】**

- 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』，東洋館，2019年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・情報編』，開隆堂出版，2019年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・工業編』，実教出版，2019年
- 文科省『高等学校学習指導要領』，東山書房，2018年

**【成績の評価方法と評価項目】**

- プレゼン資料の作成，及びそのプレゼンの内容全体 40%
- 期末テスト（筆記試験，orレポートorまとめのプレゼン） 40%
- 自主コメント，ミニコメントの記入等 20%

**【留意事項】**

- 毎時間，各自が教師になるという当事者意識をもって参加・参画することが望まれる。
- 話し合いの場に参加し，ともに考えることを重視する。
- 教職・「教職試験」情報などについても，折に触れ紹介していくつもりである。

**【備考】**

実務経験のある教員等による授業科目